

イタリアにはユーロ懐疑論者がうじゃうじゃ

発表日：2018年6月22日(金)

～それでも不安なイタリアのユーロ離脱～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

◇ イタリアでは財政・予算を司る議会の重要ポストに2人のユーロ懐疑論者が指名された。新政権はユーロ離脱を否定しているが、秋の予算審議でEUとの対立が表面化することは避けられなさそうだ。

21日のイタリア国債価格が再び大きく下落（利回りが上昇）した。きっかけは、財政・予算運営に関する議会の重要ポストに2人のユーロ懐疑主義者が指名されたこと。上院の財務委員会の委員長に指名されたのは、連立政権に加わる右派ポピュリスト政党・同盟に所属するバニヤイ議員。同氏は3月の議会選に立候補する以前は大学で教鞭をとっていた経済学者。単一通貨ユーロに懐疑的で、「ユーロの落日～どのようにそしてなぜ、単一通貨の終焉が欧州の民主主義と繁栄を救うのか？～（イタリア語の原題：Il tramonto dell'euro -Come e perché la fine della moneta unica salverebbe democrazia e benessere in Europa -）」などの著書がある。また、同氏が後書きを記した別の経済学者リナルディ氏の著書（欧州崩壊～ユーロに魂を売った～（ドイツ語・イタリア語の原題：Europa Kaputt -(S)Venduti All'euro-）の前書きを書いていたのが、連立政権の組閣に際して大統領が経済・財務相への入閣を拒否したサボナEU担当相だった。同じく経済学者出身のサボナ氏は過去にイタリアのユーロ離脱の代替計画（プランB）を起草した人物として知られるが（詳細は6月8日付けレポート「[ユーロ離脱の秘密計画](#)」を参照されたい）、そのプランBの共著者として名前を連ねているのがリナルディ氏。ちなみに、13名の共著者の筆頭に名前が記されているのがリナルディ氏で、2番目がサボナ氏だ（名前はアルファベット順ではない）。バニヤイ氏自身は共著者ではないが、ユーロに懐疑的な経済学者コミュニティの一員と考えられる。

また、下院の予算委員会の委員長に指名されたのは、同盟の経済担当の報道官を務めるボルギ議員。同氏は3月の選挙戦で同盟の公約に掲げられていた「ミニ国債（mini-BOTs）」の発案者として知られる（詳細は5月23日付けレポート「[イタリアのユーロ離脱への抜け道](#)」を参照されたい）。これは法定通貨ではない借用証書を発行し、政府の未払い債務の返済に充てる計画。EUの財政ルールに縛られずに財政運営を行う手段としてだけでなく、借用証書が広く流通すれば事実上の並行通貨制への移行につながり、ユーロ離脱への抜け道になると考えられている。連立政権の公約には含まれていないが、政権発足協議の最中にボルギ氏が同計画について改めて言及し、金融市場にユーロ離脱への不安が広がった経緯がある。

サボナ氏に代わって就任したトリア経済・財務相やサボナEU担当相（別のポストで入閣）は就任後、イタリアのユーロ残留を約束し、ユーロ離脱の計画も議論もないと発言している。ただ、新政権の公約を実現しようとするれば、EUの財政ルールに抵触することは目に見えている。来年度の予算審議が本格化する秋にかけて、政権や議会がどの程度歩み寄るかは不透明だ。ユーロ懐疑論者が脇を固めることに不安を感じずにはいられない。

以上